



初刊号
(発行所)

真宗大谷派
松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30
TEL(052)411-5301
FAX(052)411-5341

親鸞聖人七百五拾回御遠忌待にあたり
寺報発刊に憶う

- 一、聖人の面影をしたいて
- 一、念仏の根源を思いて
- 一、同朋唱和の実をもとめて
- 一、先人・後人・相続の誠をいたし
- 一、人類皆、等しく弥陀浄土に生まれんことを

右私達の希望を高らかに掲げるものである

平成二十年四月一日



復興永代経とは

昭和二十四年戦災の焼土に建立した假本堂は間口三間、奥行五間であった。

現玄關から西へ延びた場所であった。大治町の伊藤さんが中心となって物資不足のなかで工面に工面を重ねて完成したものであった。敗戦下にあった一字を建立することは並大抵のことではなかった。入仏供養を終へ翌昭和二十五年四月八・九の両日、西の切角田宅を稚児申経宿として蓮如上人四百五拾回御遠忌を執行了した。

假本堂を造営し自信を深めた一同



の次なる目標は旧本堂の再建であった。

念仏の道場をつくる。百二十回に及ぶ役員
の会合をかさね英知をあつめて次なる結論を
得たのであった。「復興のための永代経をは
じめようではないか。おおかたの寄進をお願
いし、その方々こそを念仏の先達として法名
軸をつくり報恩感謝の誠を年々相続しようで
はないか」と、第一回の復興永代経はこうし
た経過をへて昭和二十六年四月決行されたの
である。以来十年の歳月を費やし、ようやく
東京オリンピックの三十九年に大事業は完成
したのである。浄財をよせられた方々は四百
二名であった。

金額は壹千七百万円であった。ちなみに当
時の文書によると職人の日当は七百五拾円と
ある。これ一つをとってみても困難のほどが
しのばれるのだ。おおかたの、念仏によせら
れた徳を偲び、後人の我ら一同、正信偈を唱
和し恩徳讃を高らかにうたい相続の誠を致す
感謝の一日こそが復興永代経そのものである。

「聖人のおことば」

桜前線が、名古屋地方は三月二十九日と報じている。世の中、すべてが多忙である。咲いて散る。生まれて死ぬ。ただそれだけといえはそれまでだがこれがなかなか難しい。その三月二十八日の午前は十時、毎月のごとではあるが「廣讚寺廿八日講」すなわち今流にいえば「宗祖聖人命日のつどい」を数人の参詣者と共につとめる。住職の法話の一部を紹介する。

住職「年をとるということは忘れっぽくなるということだ。この頃は一日中何か失せものを探しもとめている気がする。家族のみんなからは、いやがられ、からかわれたり、ばか者扱いされたりして腹のたつこと実におびただしい。

その昔も昔、八十年も前のことだが担任の加藤先生が宿題はちゃんと枕許に置き、枕許に置くんのだ。と叱られたことを思い出す」

S「そうよ、〳〵〳〵までいった時、同席のSさんが口をはさむように叱られてばかり。お蔭で担任先生の名前を今だに憶えとるわ。遠足の前夜ときたら物々しいのに

程がある。足場もないほど並べてよ。まあそれが楽しかったものだった」

住職「そうだな、ところでSさんよ。今年の冬はえらく悪かったそうだがもうええかや」

S「もう肺炎でだめだと思ってよ。棺に入れてもらうものをよ!!はいずり出ては枕許にあつめ思案にくれたがよ!!どうしても院主さんにいただいた法名がでてこんのだわ!!こまっつてよ!!やっつと十日頃に見付けてよ。安心したただわ!!そしたらよ!!風邪も治り春になっただわ!!」

住職「そうか、そうか、よかったの!!法名が大寒の頃にみつかったならよ!!お前さんは安心して往生できたのにな!!見付からなんでよかったぞや」

S「そうよ、そうよ。でもよ、わしはよ!!十一月の御待ちうけまでは生きとりたいだわ」

住職「お互いにな!!ようこまできたもんだ。まあSさんよ。この調子ならいけそうだぜ」

この日の参詣五名声をそろえた。そして言った。

『いけるよ、〳〵〳〵いけるわさ』

八十年の年功を経た屈託のない者達の会話だ。

住職は、聖人八十四歳の時、弟子覚信房御返事の末尾の

句を思い出していた。

『いのち候ば、かならずく、のぼらせ給べく候』

そして言った。

「命だぜ 命だぜ みんな大事にな!!」

と、この日の法話を結んだ。

この日、本堂前の桜は二、三輪ひらいた。



帰敬式 於 廣讚寺

行事経過(報告)

- 三月 八日 同朋会総会(会員六十二名)
- 三月 二十日 彼岸永代経(百五拾名志納)
- 三月 二十二日 女人講 報恩講(物故者四名)
- 三月 二十二日 前進座観劇(二十七名)
- 三月 二十三日 果岸(二十名)
- 三月 二十八日 二十八日講総会
- 三月 二十九日 同朋大会(帰敬式五名 参加者二十名)

行事予定

- 四月 二十日 同朋会春の一日旅行
- 五月 五日 復興永代経

廣讚寺・慶びのお知らせ

このたび仏縁ありがたく若院・若坊守の入山を迎えました。五月五日の復興永代経及び十一月の御遠忌(待法要の両次に報告法要を致し皆々様方に披露申し上げます。

住職 松

岡亮 昭
釋尼 貴志
砂 織